

週目点

川本 裕子 早稲田大学教授



▶ドイツ総選挙

政策の本質見抜く目を

ドイツ総選挙が十八日、実施される。与党の社会民主党を率いるシュレーダー首相が「アジェンダ二〇一〇」という改革プログラムで臨んできたのに対し、野党のメルケル・キリスト教民主同盟（CDU）党首はより徹底した「小さな政府」を掲げる。与野党が改革路線を競う構図は、日本の衆院選とそっくりだ。

独経済はようやく上向き始めた。それでも、労働組合の意向を尊重する伝統的な労使協調路線を背景とする高コスト体質の見直しは緒についたばかりである。

日本もドイツも底力があるのに、戦後復興を果たしたという成功体験にとらわれ、改革を進めるのをためらってしまふ傾向がある。今回の選挙を通じて、両国の有権者は今後どのような改革を進めるのか選択することになる。

両国の与野党党首は改革をうたう。有権者は各党が掲げる改革の中身を自分の問題としてとらえて、政策の本質を見抜く目を磨く必要がある。